

展覧会「江戸メシ」

大田記念美術館（原宿） 25. 01. 05～26

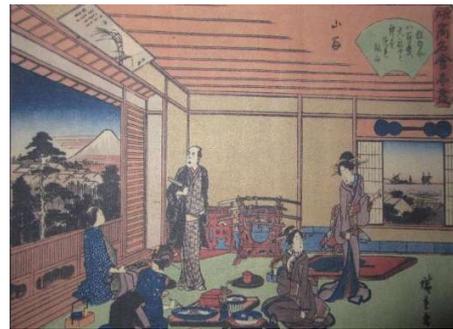
江戸時代の日本では食文化が大きく発展し、「寿司、そば、天ぷら」といった料理が、手軽に庶民が楽しめるファーストフードとして人気を集め、味噌、酢、醤油といった調味料が広く流通し、江戸の人々は自宅ばかりでなく、屋台や料亭で食事を楽しむなど、現代にまで繋がる食文化はこの時代に生まれたという。

こうした江戸時代の食文化は、庶民の暮らしを題材とする「浮世絵」でしばしばとりあげられて、「葛飾北斎」「歌川広重」「歌川国芳」といった人気絵師は、“当時の様々な料理の食材や食事の様子”を数多く描いている。

本展では、江戸時代の食文化を描いた「浮世絵作品」を紹介して、寿司を食べる女性を描いた「歌川国芳」、女性が天ぷらを楽しむ様子を捉えた「月岡芳年」に、活気ある屋台が並ぶ「歌川広重」などの90点ほどの作品が展示されている。

江戸っ子たちは、自分で料理をすることは勿論、近所の店で惣菜を買ったり、屋台で気軽に食事を楽しんだり、立派な店構えの料亭で宴会も行ったという。

当時の浮世絵師によるさまざまな場で楽しまれた「江戸メシ」の食事風景が、数多くの作品として紹介されていて興味深い。



歌川国芳 《綿揃女弁慶 松の寿司》

左図

月岡芳年 《風俗三十二相 むまさう嘉永年間女郎の風俗》

中図

歌川広重 《江戸高名会亭尽 山谷八 百善》

右図